

令和8年度 教育行政 執行方針

教育行政執行方針表明の様子、YouTubeチャンネルで配信しています▶



八柳教育長が令和8年度の教育行政執行に関する所信と基本的な方針を表明しましたので、その内容を紹介します。

3月5日招集の町議会定例会



今日、少子化・人口減少、グローバル化の進展、人々の価値観や生活様式、ワークスタイルの多様化など、社会情勢が大きく変化し、従来の知識や経験だけでは正解を見いだすことが難しい時代を迎えております。

このような中、教育には、子どもたちが自分のよさや可能性を認識し、自己肯定感を高め、多様な人々と協働しながら持続可能な社会の創り手となることができれば、一人一人が、多様な個性を尊重し合い、生涯にわたって学ぶことができる環境を整えることが求められております。

教育委員会といたしましては、こうした動向を見極めながら、ふるさと長沼を愛し、長沼町の持続的発展を支え、新たな未来を拓く人材の育成に努めるとともに、全ての町民が、地域文化の中で心豊かで生きがいのある人生を送ることができ、ウェルビーイングの向上を実感できる生涯学習社会の実現を目指し、町民の信頼と期待に応える教育行政の推進に取り組んでまいります。

重点施策 学校教育

9年間の義務教育において、子どもたちが学ぶことの意義や喜びを実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を確実に育成することができるよう、「一人一人の学びをしっかりと支え、誰一人取り残すことのない教育」の実現を目指してまいります。

▼小中一貫教育の推進

小中一貫教育につきましては、「二人一人の学びをしっかりと支え、誰一人取り残すことのない教育」を実現するための最も重要な取り組みであると考慮しており、施設分離型の小中一貫校として4年が経過する中、義務教育学校の開校を見据え、小中学校が一層連携して小中一貫教育の充実を図ってまいります。

特に、9年間の見通しを意識したカリキュラムの更なる充実、学年の系統性を重視した指導計画や単元構成の改善、難易度等を考慮

進めるとともに、生成AIを含む校務DXの推進を通じて、校務の効率化による働き方改革や、教職員の創意を生かした子どもの学びの転換を図ってまいります。

▼教員の授業改善による 学力の向上

一人一人の子どもに新しい時代に必要となる資質や能力を育成するためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善に、小・中学校あわせて取り組むことが重要と考えております。

このため、小中一貫合同研修会等において外部講師を招聘し、一人一人の学びをしっかりと支え、誰一人取り残すことのない教育や指導の在り方について研鑽を深めます。特に、学習のねらいを明確にし、見通しを持って学ぶことのできる学習過程や、一人一人の子どもが主語になる授業の進め方など、小・中学校で共通テーマに基づく研修を推進します。また、先進地視察等を通じて本町の実態に合った指導の在り方を検討し、新校舎建設に合わせて子どもが学びに向かう環境の整

▼豊かな心と健やかな体を 育成する教育の推進

豊かな心の育成につきましては、「道徳科」を要として、教育活動全体を通じて道徳性が育成されるよう、道徳教育推進教師を中心に、組織的に授業研究に取り組むとともに、学習・生徒指導にピア・サポートを取り入れ、支え合いや思いやりの心を大切にした活動を引き続き進めてまいります。

また、「新体力テスト」を引き続き全学年・全種目で実施し、体育の授業改善を図るとともに、1校1実践の取り組み、部活動などへの支援を行うなど、体力向上や運動習慣の確立に向けた取り組みを推進してまいります。

また、食に対する正しい知識や望ましい食習慣を身に付け、心身の健康を実現



ふるさと給食

する食事の重要性について学ぶため、学校給食を教材とした食育の充実に取り組むとともに、安全で美味しい給食の安定提供に引き続き取り組んでまいります。

さらに、国の学校給食費の抜本的負担軽減のための「給食費負担軽減交付金」を有効に活用し、町立小学校の学校給食費の無償化を実現し、町内公立学校に通学する子育て世帯についても学校給食費の負担軽減を図ってまいります。

▼子どもたちの学びを 支える教育の推進

外国語教育につきましては、英語によるコミュニケーション能力を育成するため、引き続き外国語指導助手(ALT)を小・中学校に1名ずつ配置してまいります。また、中学生海外派遣事業や英語検定の検定料助成を継続するなど、グローバル社会に対応する能力の向上と異文化への理解を図り、国際社会に貢献する人材を育ててまいります。

個に応じた指導につきましては、きめ細かな学習支援を行うため、引き続き支援員を配置してまいります。小中高の連携につきましては、学びの連続性の観点から、小中高校生の合同の活動を積極的に進めてまいります。また、町立学校長会議への長沼高等学校長のオブザーバー参加や長沼高等学校の魅力化支援や生徒への資格取得の補助などに引き続き取り組んでまいります。



長沼町仲間づくり「子ども会議」

した全員参画の学習形態の工夫など、小中学校の共通理解のもとで「一人一人の子どもが主語になる授業」を目指した取り組みを進めてまいります。

また、本町独自の「長沼ふるさと学」につきましては、長沼町の伝統・文化、最先端の取り組みや地域の課題など、地域素材を活用した探究的な学習として充実を図ります。教わるだけでなく、自分から知ろうとする「学びの楽しさ」を獲得できる子の育成を目指し、教育課程の接続強化や、教職員による授業研究や乗り入れ授業を推進し、義務教育9年間の子ども成長の姿を見据え、中学卒業時の子どもに責任を持つ教育に取り組んでまいります。

▼ICT活用による 学びの質の向上

ICT環境は、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実等を図る上で必要不可欠な学習基盤であるという考えのもと、2年間にわたって指定を受けた文部科学省「リーディングDXスクール事業」の成果を生かした取り組みを進展させるとともに、生成AIを含む情報活用能力の育成についての実践も積み重ねるなど、学びの質の向上を図ってまいります。

また、昨年度、更新を行った学習用端末の操作の習得を促進し、1人1台端末とクラウド環境の更なる活用を